

演題

歯周病患者における矯正を併用した歯周・インプラント治療の実践

氏名 竹内 公生

抄録

臨床に矯正を併用することによって審美・機能を改善させ患者により多くのメリットをもたらす。さらには、歯の切削を最小限にし、より低侵襲 minimally invasive な治療を実現できる可能性がある。歯周病に罹患している歯列では、Brunsvold が示しているように歯周病の進行によって臼歯部の咬合が崩れ咬合高径が低下しその結果下顎前歯の突き上げにより上顎前歯のフレアアウトが生じるいわゆる病的な歯の移動 pathologic tooth migration PTM は歯周病患者の 30.03～55.8% と高頻度で罹患しているとされており、病的な歯の移動による咬合性外傷の増悪や更なる歯周疾患の悪化を防ぐために進行した歯周疾患を有する歯に矯正が必要となる局面は少なくない。さらにそこに歯の欠損が加われば問題はより複雑化し審美・機能ともに達成するためには歯周治療・インプラント・自家歯牙移植・矯正などを駆使した包括的なアプローチを使用した治療戦略が必要になることが多い。また歯周組織再生療法に矯正による歯の移動を組み込むことによって更なる付加的な効果が獲得できるかもしれないことも臨床で経験している。上記を踏まえ今回は、矯正をインプラント・歯周組織再生療法と効果的に併用できたと思われる臨床例を複数供覧し参加される会員の先生方と活発なディスカッションができれば幸いである。

略歴

2001年 新潟大学歯学部卒業

2008年 浜松市にて開業

所属

日本歯周病学会

日本臨床歯周病学会

日本口腔インプラント学会

OJ 正会員

5-D SPIS

5-D Japan ペリオ・インプラントファンダメンタルコースインストラクター

演題

IOS を用いた前歯部審美修復

氏名 円林秀治

抄録

近年、歯科界で急速に普及しつつある IOS(Intraoral Scanner)。あるメーカー調査によれば、2020 年末の時点で国内普及率は約 9.1%となっており、現在ではさらに普及率が上昇していることが予想される。保険診療への導入もなされ、将来的にはメジャーツールになることには違いないが、「気になるがよくわからない。」、「今のままで不自由ないからまだいいや。」といった考えをお持ちの先生もいらっしゃるのではなからうか。現在、歯科界は生き残りをかけた競争がさらに激しさを増している。新しい物を導入し、その競争に打ち勝つ必要があり、IOS を有効活用することで日々の診療の効率化が図れると最近実感している。当院は IOS を導入して約 4 年、まだまだ「IOS 初心者マーク」であり、日々試行錯誤だが、今回はアナログと比較したデジタル前歯部審美修復をテーマに発表させていただきたいと思う。

略歴

H16.3 九州大学 歯学部 卒業
H16.4～H19.3 田中ひでき歯科クリニック勤務（福岡市城南区干隈）
H19.4～H22.10 つつみ歯科医院 勤務（福岡県糟屋郡須恵町）
H22.11～H25.8 デンタルオフィス天神北（福岡市中央区天神）勤務
H25.9～H26.9 医療法人 祐歯会 とがし歯科医院（佐賀県鹿島市） 非常勤 医局長
H25.9～H26.9 医療法人オリオン会 かもめ歯科クリニック（佐賀県佐賀市） 非常勤
H26.11.11 えんりん歯科クリニック 開業
現在に至る

所属

日本審美歯科協会
STEP

演題

デジタル時代の審美補綴治療

氏名 森本 昌孝

抄録

近年、デジタル機器は歯科医療にも多岐にわたり臨床応用されている。補綴治療においては、診断のためデジタルレントゲンや歯科用CBCT、印象採得のため口腔内スキャナー、補綴装置製作のためCAD/CAMシステムが使用されている。これらのデジタル機器の特徴を理解し、有効活用することで補綴治療を成功に導かなければならない。さらに、歯科用金属価格の高騰、金属アレルギーの増加、歯科技工士不足などの問題により、その動きは加速している。

しかし、従来行われてきた金属鑄造による補綴治療はフレーム強度や適合など良好な臨床成績を示してくれてきた。変わって使用されている二ケイ酸リチウム、ジルコニアは白い修復材料ではあるが、強度や透明感などが異なり、適材適所で使用し接着システムも重要となる。

今回、インプラントによる欠損補綴治療と天然歯補綴治療における、デジタル活用のポイント、アナログとの比較等を説明し、患者に安心・安全そして信頼される歯科医療の提供を目指した症例を提示する。

略歴

2001年 長崎大学歯学部 卒業

2001年 かんだ歯科 勤務

2006年 もりもと歯科医院 開業

2014年 日本審美歯科協会入会

所属

日本審美歯科協会 会員、

日本顎咬合学会 認定医

日本歯周病学会 認定医、

日本臨床歯周病学会 会員

二曳会、

JUC、

Quattro、

FPK、

OJ会員

演題

機能的かつ審美的な補綴治療を行うための取り組み

氏名 山本 哲史

抄録

昨今「審美歯科」というキーワードを Web コンテンツで見える機会が増えてきたように感じる。社会的に、歯の審美性に対するプライオリティが高まっていることが窺えるが、一般的に「審美歯科」という言葉は、前歯部の色調の不調和や歯列不正を改善することのみに焦点が当たった使用法をされる場合がほとんどである。

一方、歯には機能的な側面と美的な側面があり、美的な側面のみを焦点を当てた治療では当然、長期的な口元の健康美は得られない。社会の風潮や患者の要求がいかに変わろうと、歯科治療の本質は、歯周治療、歯内治療、補綴治療といった基本的な処置を一つ一つ丁寧に、確実に行うことが土台となっており、歯列矯正やインプラント治療といった一見華のある治療は「土台」の知識、手技がなければ崩壊するものであると考えている。

そこで今回は、私がスタディグループを通して学んできた基本的手技の重要性、そして審美的な補綴治療を行うために大切にしている事柄について、症例を通して発表したい。忌憚のないご意見をいただくと幸いです。

略歴

2010年 九州歯科大学卒業
2010年 とよた歯科矯正歯科医院勤務
2015年 ひぐちファミリー歯科勤務
2018年 やまもと歯科開設

所属

所属学会・スタディグループ
日本顎咬合学会
日本臨床歯周病学会 中国四国支部理事
日本包括歯科臨床学会
日本歯内療法学会
日本顕微鏡歯科学会
日本審美歯科協会
日本歯周病学会
International team for implantology(ITI)
JACD

演題

患者のライフステージを考慮した反対咬合症例へのアプローチ

氏名 西村 和美

抄録

茂木らの研究によると、「8020 達成者に反対咬合はいない」と報告され、反対咬合者は正常咬合者よりも歯牙喪失率が高いとされる。咬合のレベルで力学的に不均衡が起これば、荷重負担な部分が現れ、歯の崩壊に繋がるためと考えられる。日常臨床でも、壮年期以上の反対咬合患者は、後方臼歯の咬耗、支持歯槽骨の減少や喪失、さらには上顎前歯の喪失が多く見受けられる。

近年、歯の喪失数が多いほど、認知症、心血管疾患、脳卒中リスクは比例増加し、QOLは下がるということが明らかとされてきていることから、健康寿命延伸、健康増進のためには、カリエスや歯周病のコントロールとともに、咬合関係のコントロールが重要と考える。

今回、スタディグループ WDC の活動を紹介するとともに、生涯を通じて可能な限り長期間患者さんの口腔内を管理することを目指す地域の一般歯科開業医として、幼年期、少年期、青年期、壮年期、中年期、高齢期とそれぞれのライフステージを考慮しながら、当院に来院した反対咬合患者に対して行った咬合誘導、矯正治療、補綴治療、総合治療による咬合崩壊の是正などの取り組みについて提示する。

略歴

2000年3月 福岡歯科大学卒業

2003年1月 西村歯科医院開院

所属

日本審美歯科協会会員

WDC 会員

日本臨床歯科補綴学会専門医

日本顎咬合学会認定医

OJ 正会員

日本歯周病学会会員

日本臨床歯周病学会会員

日本口腔インプラント学会会員

演題

Implant Esthetics: Strategies for Managing Hard and Soft Tissue Around Anterior Implants

氏名 Dr. Yi Chia,Kuo

抄録

In contemporary esthetic dentistry, effective management of hard and soft tissue is essential for achieving optimal outcomes in anterior implant cases. This presentation will begin by exploring the physiological changes that occur following tooth extractions, emphasizing the differences between the healing responses of dental implants and natural teeth.

The discussion will focus on key strategies for overcoming challenges encountered during anterior implant placements, including immediate implant placement in scenarios of bone dehiscence and addressing compromised conditions of osseous housing, particularly in extraction sockets. Emphasis will be placed on reverse planning from the final prosthetic design to treatment sequencing, ensuring aesthetic integrity and patient satisfaction.

Additionally, the presentation will examine approaches for managing vertical tissue deficiencies to achieve papilla symmetry and harmonize with adjacent natural teeth. Techniques for optimizing supracrestal tissue height and the role of tissue conditioning in enhancing overall implant esthetics will also be addressed.

Through this presentation, we aim to foster a deeper understanding of the vital interplay between biological principles and esthetic considerations in anterior implantology. By focusing on these aspects, we hope to enhance our collective knowledge and inspire thoughtful approaches to achieving successful clinical outcomes.

- D.D.S, National Yang-Ming University
- Diplomate of Taiwan Academy of Aesthetic Dentistry
- Fellow of Japanese Society of Aesthetic Dentistry
- ZEISS Speaker
- Diplomate of Taiwan Alliance of Dental Implant Associations
- Diplomate of Chinese Academy of Implant and Esthetic Dentistry
- UCLA 2011 Master Implant Program

Director of Eutopia Dental Clinic

演題

「矯正およびインプラントを用いて前歯部審美障害を改善した1症例」

氏名 北野琢也

抄録

患者は31歳女性、前歯部の叢生および補綴物の審美不良を主訴に来院。

上下顎に前歯部叢生を伴う歯列不正を認め、唇側転位している1¹には審美不良のテンポラリークラウンが装着されていた。

歯列不正に対し全顎的な矯正治療を行い、保存不可と考えられる1¹に対し抜歯およびインプラントを埋入し審美的回復を図る計画とした。

歯周基本治療終了後、4¹5、4¹4の抜歯を行い矯正治療を開始、通法に従って矯正治療を進め歯列・咬合関係をおよそ構築できた時点で1¹のインプラント埋入を行うこととした。インプラントの埋入に先立ち、歯頸ラインのコントロールを目的として1¹の矯正的挺出を行った後に抜歯即時埋入を行うことで前歯の審美性の獲得を図った。

1¹のインテグレーションを確認した後に、プロビジョナルレストレーションにて審美性、咬合の確認を行い最終補綴へと移行した。

本症例では歯列不正および前歯部審美障害に対し、矯正治療およびインプラントを用いることで機能的・審美的改善が行えたと考えている。まだまだ稚拙な臨床であり、諸先生方からたくさんのご指導をいただき今後の成長の糧としたい。

略歴

2013年 徳島大学歯学部卒業

2014年 坂口歯科クリニック

2019年 デンタルオフィス北野 開業

2024年 医療法人社団 デンタルオフィス北野歯科・矯正歯科

所属

日本顎咬合学会 認定医

日本包括歯科臨床学会 認定医

日本審美歯科協会 会員

咬合療法研究会

神戸ケアクラブ